



最優秀賞受賞にあたって

宮城県気仙沼市立唐桑中学校 あべ かずひこ
阿部一彦

このたびは、歴史と名誉ある賞を頂戴いたしましたありがとうございます。その御礼として一言お話をさせていただきたいと思います。

私たちにとって、東京書籍株式会社様は命の恩人なのです。あの日、2011年3月11日、私たちの町、女川には43メートルの津波が訪れました。家屋の80%以上が流され、そこに生存していたものは55.9%の確率で尊い命を失いました。20か所以上の避難所に分かれ、そこで過酷な生活が始まりました。当時の遠藤定治教育長先生の子どもたちに活動する場面を作ろうというご英断の下、4月8日のいつもと変わらぬ新学期を迎えるため、私たちの取り組みが始まりました。

しかし、あの年、宮城県の内陸部での4月後半の学校再開をしたところがほとんどではありませんが、最大の被災地である女川町で、全てのものが流された中で学校を再開することは本当に容易なことではありませんでした。私たち教員はその教育長先生の指示の下、「学校と教員がいれば学校はできる」を合言葉に学校再開を目指しました。

しかし、水も電気もありません。何もない中で学校を再開することはとてつもなく大変なことでした。でも、私は覚えています。あの年の4月5日のお昼過ぎだったと思います、5～6台のワゴン車がまいました。それは東京書籍の東北支社の方々の車です。私たちのために、子どもたちのために教科書を持ってきてくだ

さったのです。ガソリンがない中、食料のない中、全国からかき集めて子どもたちのために、4月8日の始業式に間に合わせようと、必死になって全町内七つの小中学校の子どもたちのために教科書を届けていただきました。

その東京書籍東北支社の第一営業課の佐藤玄様から昨年の夏、この賞があることを教えていただき、今日に至りました。大変遅くなりましたが、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私たちが学校を再開した年に入学した64名の生徒は、必死になって学んでくれました。教科書を元に鉛筆もない中で授業が始まりました。その子どもたちが、自分たちが体験したつらく悲しい出来事をもう二度と繰り返したくないと、その一心で始めたのが「1000年後の命を守ろう」ということを合言葉にした活動であります。

この活動は100円募金を呼びかけ、避難する目印となる命の石碑を町内の21か所全ての津波の到達した地点より高いところに石碑を建てるために、1000万円の募金を集める活動へと結び付けました。日本中、世界中の方々のご支援により半年で集まった石碑は今6基まで建っています。子どもたちが考えた対策案は、**1、絆を深める 2、高台へ避難できる街づくり、そして3、記録に残す**、津波のことを記録に残すという取り組みです。

昨年3月に卒業した64名はそれぞれ別々の高校に進学しておりますが、現在もなお月2回ほ

ど集まってこの活動を続けています。私はその活動のきっかけとなった、たった一つの授業を行っただけの存在にすぎません。全てが子どもたちの中から生まれた活動です。私は4年間、学校は変わりましたが、子どもたちの側において学ばせていただいただけだと思っています。人間の素晴らしさ、教育の素晴らしさ、それを私は子どもたちから教えてもらいました。この論文は、そのことをまとめただけであります。

ですから、この賞は私がもらった賞ではないと思っています。今日は先ほどもご紹介いただきました生徒の一人、山下脩君が来ておりますので、生徒を代表しまして、この場をお借りし御礼を申し上げる時間をいただきたいと思います。

山下 先ほど先生がおっしゃったとおり、私たちはこれまで「1000年後の命を守る」を合言葉に三つの対策案を考え、高校生になった今でもこの活動を続けています。日本中、世界中の方々からのご支援のおかげで、一昨年、第一基目の命の石碑を建立することができました。今では女川町に6基の石碑が建立しています。

その石碑が建立されていくとともに、私たちは新たな目標を達成しようと努力しています。その活動は「命の教科書」作りです。1000年後の命を守るためには、まず身近な命を守る。そのためには、小学校の時から自然災害について学んでおくことが必要だと私たちは考えています。日本中、世界中の命を守るために、この「命の教科書」作りをこれからも続けていきたいと思っています。

最後に改めてこれまでのご支援に感謝するとともに、私たち一人一人がよりよい未来のために少しでも貢献していくことを誓いながら、私の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

子どもたちは今1000年後の命を守るためよりよいふるさとづくりに積極的に貢献しようとしています。また、今山下君がお話したとおり、自分たちがいただいた日本中、世界中の人々からのご支援に対する恩返しの一つの表れとして自分たちが体験した津波から、津波でのつらく悲しい出来事を「命の教科書」という形でまとめ、それを日本中、そしてアジアの人々に届けたいという活動を行っています。

全てが子どもたちから生み出された取り組みにより、私たち大人が生きる希望、生きる力を与えてもらっています。子どもたちが1000年後の命さえも守ろうと必死になって取り組んでいます。こうした取り組みを東京書籍様をはじめ、多くの方々に認めていただき、このような輝かしい賞を受賞することができたことを本当に感謝しています。

これまでご支援をいただいた日本中、そして世界各国の方々に心から感謝申し上げるとともに、今後とも子どもたちの活動をお支えいただけますようお願い申し上げ、感謝の言葉に代えたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。